

令和6年度 五百石地区町政懇談会

開催日時 令和6年6月28日（金）午後7時～午後8時

開催場所 五百石公民館

出席者 立山町 舟橋町長、杉田副町長、西田消防長
清水総務課長、野田建設課長

地元議員 内山議員、堀田議員

五百石地区振興会 堀田会長

企画政策課 瀬本課長、中川課長補佐、富崎主事、石黒主事、松岡

参加者数 59名（うち町職員9名）

1 挨拶

町長 挨拶

2 地区代表者挨拶

堀田会長 挨拶

3 懇談会

（1）町からのお知らせ

- ①町民体育館の解体について（消防署）
- ②（仮称）防災センター及び児童館について（企画政策課）
- ③立山町における災害時の対応について（総務課）

■質疑応答（町からのお知らせ）

●資料2の災害時協力井戸の井戸水について、飲料水としての水質検査を行うのか。

（総務課長）

飲料水としては使用せず、トイレや洗濯等に使う生活用水として、水道が復旧するまでの間のつなぎと考えているため、水質検査は考えていない。

●①資料2の緊急時優先避難所について、避難物資（食料や水、毛布等）を備蓄する予定はあるのか。

②（仮称）防災センターに備蓄するスペースはあるのか。

（総務課長）

- ① 立山中央小学校と旧芦峠小学校の2か所に避難物資を備蓄しており、そちらから運ぶ予定としている。各避難所での備蓄は、現在のところ想定していない。

(企画政策課長補佐)

- ② (仮称)防災センターについて、必要分の備蓄は想定している。決められたスペースの中で、備蓄する物資については今後検討したいと考えている。

●①資料2の地震時における避難所の開設について、震度5弱以上で開設担当職員が避難所に直行して開設と記載されているが、どのように判断して開設するのか。

- ②1月の能登半島地震の津波警報発令の際、海沿いの住民が町元気交流ステーションやコンビニなどにたくさん避難した。今後、私たち地区住民が避難した場合、優先して避難所に受け入れてもらえるのか。

- ③資料2の災害時協力井戸の登録について、町が把握している方々に災害時の協力を打診するのも一つの方法ではないか。

(町長)

- ① 震度5弱以上の地震が発生した場合は、あらかじめ町が定めた開設担当職員として鍵を持たせている職員が、各避難所に直行して開設することを決めている。ただし、担当職員がすぐに駆け付けられない可能性もあるので、その時に行ける町職員が、マイナンバーカードで避難所を解錠できるようにした。
- ② 県内に津波警報が発令された場合は、住民が避難できるよう、町元気交流ステーション(仮称)防災センター・児童館の供用開始後は同施設)に避難所を開設することを考えている。なお、災害時の避難所の受け入れについては、現在のところ、町民や町外の方々を区別していないので、ご理解いただきたい。
- ③ 能登半島地震において、ペットボトルの飲料水は比較的すぐに集まったが、トイレや洗濯等に使用する生活用水はなかなか復旧しなかったと聞いている。井戸水を提供いただける方がおられたらご協力いただきたい。

(2) 意見交換

■五百石地区協議事項の回答

●五百石駅周辺の再開発について

(建設課長)

令和4年度に国からの支援を受け、五百石駅前を中心とする町中心部の活性化事業の一環で、ビジネスホテルの誘致や空き家、空き店舗を利活用した民泊やゲストハウス等、実現の可能性についての調査を実施した。

調査の結果、町内企業へビジネスで訪れる方や、町外からの観光客等が、宿泊施設の周辺にあったら良いと思う施設の第1位が「コンビニエンスストア」であった。また、民間宿泊事業者へのヒアリングからは、特にビジネスホテルでの利用者は大浴場の有無でホテルを選んでおり、「大浴場」の利用者ニーズが高いことが分かった。その他の課題としては、飲食店の充実や宿泊施設の立地を可能とする都市計画法に基づく用途地域の見直しといった課題も示されている。

そのようなことを踏まえて、役場から天満宮までの県道沿いの土地について、一定の区画

整理事業等を行えば、土地の形状も良くなり、土地が流動化するのではないかと考えており、令和7年度から国土交通省の補助事業を活用するべく、その整備手法について、コンサルタントに委託し、検討作業を現在進めているところである。併せて、空き家・空き地の状況を把握するため、詳細な図面を作成する必要性があるので、測量業務も実施している。

なお、来年度の国補助事業の採択される見込みとなれば、関係の方々と「まちづくりワークショップ」の開催等を考えている。

●避難所について

(総務課長)

避難場所は、多目的ホールとなる。避難時には、座席やステージを収納することで、約200人の避難が可能である。また、災害が長期化し、プライベートスペースを確保する場合は、約50区画を設けることができる。

児童館部分は、高齢者や障害をお持ちの方、妊産婦、乳幼児等、配慮が必要な方向けの避難所として活用する。収容人数については、避難者の状況によって変わるので、柔軟に対応したいと考えている。

設備については、太陽光パネルや地中熱空調を設置し、施設全体の冷温環境を整えている。また、屋外となる南側の児童ひろばや乳幼児ひろばでは、テントスペース、炊き出しスペースとして活用することができる。このほか、役場敷地内に防災井戸を1か所整備し、生活用水を確保したいと考えている。

3階建ての町民会館と比較すると、収容人数が少なくなるが、町元気交流ステーションとともに災害で大きな役割を果たすことができる。

■意見交換

●資料2の生活用水の書き方について、トイレや洗濯等に使用するというただし書があれば、分かりやすいと思う。また、緊急時優先避難所の開設で、雄山中学校屋内運動場とあるが、校舎内と運動場のことか。

避難所の開設にあたって、雄山中学校の避難スペースのレイアウトは決まっているか。

(町長)

生活用水については、ただし書を記載する。雄山中学校の屋内運動場は、体育館を想定している。

町避難所運営マニュアルにおいて、避難スペースの参考レイアウトを示しているので、それを見本に開設していくことになる。

●高齢や独居、病気等により、自力で避難できない避難困難者に対して、どのような対策をとるのか。

能登半島地震の際、富山市等では避難者の車で道路が渋滞し、大問題になったと聞いているが、対策はあるか。

(総務課長)

高齢や独居等による避難困難者については、避難行動要支援者という制度を活用し、民生委員をはじめとした地区の方々に、避難経路を整理いただいている。民生委員をはじめ、地区の自主防災組織の力も借りながら、避難困難者の移動を確保いただくことに、ご協力をお願いしたい。

道路の渋滞については、県が、今回の地震を踏まえて県民を対象にアンケートを実施すると聞いている。「車で移動した」「自分がどこに行くべきか把握しているか」等のアンケート内容を県が集計し、結果を踏まえて、各自治体がどのような形で対応するか検討していくことになる。まずはその結果を確認し、町としてできることを検討する予定である。

●資料2の緊急時優先避難所のうち、五百石地区は雄山中学校屋内運動場、立山中央小学校屋内運動場、元気交流ステーションとなっているが、震度5弱以上で3施設に五百石地区の全住民の避難を想定しているか。

また、五百石地区の緊急時優先避難所に避難できない場合は、集落公民館への避難を想定しているのか。

(町長)

緊急時優先避難所において、地区住民全員が避難されることは想定していない。基本的には、被災された方々や要援護者台帳に載っているような方々が避難されるということを想定し、避難所を指定している。それぞれの家庭においては、耐震工事を進めていただければありがたい。

集落公民館の活用については、能登半島地震時に、一部の区長が自主的に避難所として鍵を開けられたと聞いている。町としては災害時、集落公民館の状況までの把握は難しいと思っている。集落公民館には町職員を派遣できないが、町に状況をご連絡いただければ、ある程度の支援ができると考えている。

●緊急時優先避難所に県立雄山高校は指定されていないが、県との避難所の取り決めはどうなっているのか。

(町長)

県立雄山高校の避難所指定については、現在のところ、県と取り決め等は行っていない。

●マイナンバーカードがあっても停電している場合は、解錠できるのか。

(町長)

マイナンバーカードの解錠システムについては、電気が通っているか、インターネットが使用できるか、さまざまなことを想定することになるが、担当職員に鍵を持たせて解錠できるようにしている。

●五百石駅前の再開発について、民泊やビジネスホテルなど、宿泊に関してはいろいろと検討されているが、住居用としての再開発の考えはあるのか。

(町長)

再開発の具体的な手法はこれからであるが、一定の区画整理事業などを行えば、土地の形

状も良くなり、土地が流動化するのではないかと考えている。令和7年度から国土交通省の補助事業を活用するべく、整備手法をコンサルタントに委託し、検討作業を進めている。

その中で、ビジネスホテル以外の需要もあると考えており、例えば高齢者向け住宅、町内に存在しない診療科のクリニック誘致等、地区住民の皆さんと一緒に考えていきたい。

●ビジネスホテルの大浴場は、町民が利用することはできるのか。

(町長)

町内企業へビジネスで訪れる方や、町外からの観光客の宿泊ニーズ等の調査によると、宿泊施設の周辺にあったら良いと思う施設の第1位が「コンビニエンスストア」であった。また、民間宿泊事業者へのヒアリングでは、ビジネスホテルでの利用者は大浴場の有無でホテルを選んでおり、「大浴場」の利用者ニーズがかなり高いということが分かった。

なお、民間の経営として、一般のお客様が入浴利用することは問題ないと聞いており、ビジネスホテルを誘致したら、コンビニエンスストアや一般入浴の問題も解消できると思っている。

●ビジネスホテルのターゲット客層について、観光客を考えているのか。

(町長)

ビジネスホテルの客層について、現在のところ、観光客は考えていない。例えば、県外企業の方が、取引の関係等で町内企業を訪問された際に、安く泊まりたいという需要がある。また、地元の建設会社が県内外の方を町内で雇用していることも聞いており、そういった方々を想定している。

4 町議会議員挨拶

内山議員、堀田議員

5 閉会